

IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門ニュースレター 2008年9月号 (http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/22-newsletter/nl_2008.html)

「産業応用部門の編修広報」

電気学会産業応用部門編修広報委員会委員長
玉井 伸三
(東芝三菱電機産業システム(株))



6月から1年間、平成20年度の部門編修広報委員会委員長を担当させていただきます。堀部門長の下、他の委員会と連携し、部門の編修広報活動の活性化に努力したいと思います。

編修広報委員会は、論文委員会、技術委員会と連携した学術情報、大会等の活動の公開、広報を目的とし、部門のニュースレターとホームページの製作を主に担当しています。以下にそれぞれの現状と課題を挙げたいと思います。

・ニュースレター：

前清水委員長の下、関係諸氏の大変なご努力の結果、ニュースレターの編修期間が短縮されようとしています。この取り組みは数年前にも行われましたが、委員の方々のノウハウの継承が難しく、編修期間が元に戻ってしまった経緯があります。今回、そういったことがないように、きちんとしたルール化をし、継続可能なシステムに定着させたいと考えます。そうする事によって、記事の速報性を向上させたいと考えています。ニュースレターは部門ホームページに電子版がアップロードされています。紙版では、ページ数や紙面の都合、時間の制約で割愛せざるを得なかった情報も、ホームページでは掲載が可能です。今後の報告記事に関して、ホームページの活用が出来ないか考えたいと思います。

ニュースレターの記事は、編修広報委員会の担当委員の方々が企画し記事を集めていましたが、記事の公募の検討を始めています。ニュースレター8月号では、「研究グループ紹介」の公募の案内をさせていただいています。ご自分の研究グループを電気学会でPRしませんか？ご検討をよろしくお願いいたします。今後も更に公募できる記事の募集を検討していきます。

・産業応用部門ホームページ：

昨年、電気学会のホームページがリニューアルされ、その標準フォーマットに従った新しい部門ホームページの運用も始まりました。本部との情報連携が良くなり、定型情報の更新が早くなりました。ただ、部門独自の情報発信に積極的に活用されているかと考えると、上記ニュースレター記事の充実などを含めて、まだ検討することがあるのではないかと思います。更に、英語版ホームページのリニューアルという大きな課題が残されています。世界から見た電気学会産業応用部門の玄関口である英語版の充実を早急に行いたいと考えています。

前齋藤部門長は「ものを言う会員」(2006年9月号巻頭言 http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/22-newsletter/nl_2006.html) となって、会員諸氏の要望、意見で学会活動を活性化することを呼びかけられました。記事の公募をはじめとして、ニュースレターや部門ホームページを会員の「ものを言う場」として積極的に活用いただくことを検討します。

昨年、電気学会では若手の研究者の方々に集まっていた、若手技術者と電気学会の在り方、電気技術の未来を考える集まりを企画いたしました。若手技術者の方々は「ものを言う会員」となり、貴重な答申を出していただきました。その答申には部門に反映できそうな提案もあり、今後議論して試行できるものを検討したいと思います。特に企業の若手研究者の方々には、電気学会との関わりを持つことがご自分の業務に役に立つような企画が必要だと考えております。

新鮮な情報を提供し、部門会員諸氏の活発な活動に貢献する編修広報委員会でありたいと思います。会員皆様のご支援をよろしくお願いいたします。